

# 『召しにふさわしい歩み③』

'22/11/20

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章 29節（新約 p.378）

『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』とエペソ 4:1のみことばは教えます。つまり、神様によって救われたのなら、救われた者らしく…、神にならって歩んでいきなさい！ということ、みことばは教えてくれています。その後、この手紙を書いたパウロは、クリスチャンたちの一致や協力について語っています。

「神によって救われた私たちクリスチャンは、救われる前の私たちがそうであったような…、虚しい歩みをしてはならない！」と、聖書のみことばは教えます。…そういったことを私たちクリスチャンは、もっともって、学んでいく必要があるのではないのでしょうか？…と言いますのは、あまりにも多くのクリスチャンが、「自分は救われたのだから、もうそれで良いや。天国に行けるようになったんだから、あとは自分の好きなように生きていくんだ…」というようなことを考えているからです…。

## 命題：召しにふさわしい歩みとは、どのようなものなのでしょうか？

今日、私たちが学んでいきたいことは、私たちが話す「言葉に関すること」です。…と言うのは、私たちの話すちょっとした言葉で、人が励まされたり、慰められたりすることがあれば…、その逆に、その言葉一つで、人を怒らせたり、傷付けてしまう、というようなことが往々にしてあるからです。

「言葉において失敗しない人間はいない…」と聖書のみことばは教えます（ヤコブ 3:8）。確かに、私たちはこれまで、様々な言葉によって傷付いてきました。でも、だからこそ、聖書のみことばは教えるのです！「正しい…、有益な言葉を話さない！」って…。しかし、現実問題として、じゃあ一体、どんな言葉が「有益な言葉」なのでしょう？どういった目的で語られるものが、正しいものなのでしょう？…ある方は言うかも知れませんが、「人を楽しませ…、人を幸せにするような言葉を話せば良い。人が嫌がるようなことを言うべきではない！」って…。しかし、語るべきことを語らずに、目先の楽しいことや幸福論ばかりを話すようなことが、本当に正しいこと…、神様が願っておられることなのでしょうか？

また、ある方は、こうおっしゃるかも知れませんが、「人に対して、本当に必要なことを言ってあげることが正しいこと・良いことだ！」と…。しかし、じゃあ一体、何が必要なことなのでしょう？恐らく、そういったことは、人の考えや価値観で変わってくるものではないのでしょうか？

だから、私たちは、この世の中がどう考え…、この世がどう教えているか、ではなくて…、天の神様が何を願い、その神様がどのように教えてくれているのか、ということに耳を傾けないといけないのです！それでは、今日のみことばをお読みいたします。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 4:29 をご覧ください。そこには、こう記されています。

29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。

## IV・悪い言葉ではなく、人の徳を養う言葉を話す！（29節）

ここ 29 節が教えてくれていることを、簡単に言い換えますと…、悪い言葉ではなく、かえって、人の徳を養う言葉を話さない！ということになるかと思えます。でも、じゃあ、「悪い言葉」とは具体的に、どういったものなのでしょう？…また、「人の徳を養う言葉」って、どんなことを基準に考えるべきなのでしょう？…今から、そういったことについて考えていきましょう。

### ●言葉に関する警告！

まず、先週も言いましたように、今日のメッセージは少し前から続いていますので、メッセージのポイント、前回に続いて、今日は4つ目のポイントになっています。…さて、今日のみことばは、この日本語訳の聖書でも十分分かると思いますが…、非常に厳しい口調で、『悪いことばを、いっさい口から出してはいけません！』と命令されています。これまで私たちが学んできたように、私たちクリスチャンは行ないにおいて、神が望まれるように、「清く正しく」あるべきなのは言うまでもありませんが、それと同様に、私たちが普段口にする言葉…、私たちが話す会話においても、神様が望まれるように「清く正しく」あるべきなのです…。

言葉というものは、私たち人間にとって、非常に重要なものであります。言葉を正しく用いると、それはとても有益なものになります。例えば、真の神様も、言葉を用いて、私たち人間と交わりを持ってくださいましたし…、私たちにとって1番大切な救いのメッセージも、聖書という…、「書かれた言葉」によって伝えられました。この世には、すべてのものを造られ…、すべてを御支配なさっておられる真の神様がいらっしゃる…、私たち人間は、実は、自分の犯した罪の故に、永遠の地獄に向かっていたということ…、しかし、神様は、私たちが救うために、ちゃんと救い主を与えてくださったことなど…、そういった大事なことを、神様は明確な言葉でもって私たちに教えてくださったし…、もっと言えば、私たち人間に、そういった言葉でもって、色々なことを理解できるような能力を、神様は私たち人間に与えてくださいました…。そういったこと以外にも、神様に対する賛美や祈りも、すべては言葉を用いてなされるものです。

しかし、その逆を言う…、言葉ほど失敗しやすいもの…、言葉ほど誤解されやすいものも、あまり無いのではないのでしょうか？…よく私たちは、「軽はずみに、こんなことを言ってしまった…」と、後で後悔したりします。「もっと、こんな言い方をすれば良かった…」と何回悔やんだことでしょうか…。多分、私たちは、実際に、人を殴ったりして、傷付けることはほとんど無いと思います。しかし、言葉によって、人を攻撃したり…、その人の心を傷付けたりしてしまうことが、どれほど多い者でしょうか？

ですから、私たちの話す言葉に関して、イエス様はこんな厳しい警告をされました。マタイ 12:34-37、『34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましよう。心に満ちていることを口が話すのです。35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。36 わたしはあなたがたに、こう言いましよう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。』⇒私たちは皆、それぞれ、自分の語る言葉において責任があると、イエス様は教えてくださいました。しかも、私たちの話す言葉はすべて、天の神様が覚えておられ、私たちは、そういったことについても裁かれる日がやって来るのです。

また、もう1か所、ヤコブ 3:2-6もご覧ください。『2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もつばに制御できる完全な人です。3 馬を御（ぎよ）するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。4 また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るので、ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。』

⇒私たちの舌…、言葉を発する舌というものは、私たちの体のほんの一部分です。しかし、その舌が、私たちの体全体を汚すのだと、みことばは教えます。そのことを説明するために、ヤコブが用いた例は、大きな船さえも操るかじであり、また、車輪でした…。車輪のほんの一部分でも燃え出してしまうと、それがスポークを伝って、あっという間に、火が車輪全体に燃え広がって…、やがては、その車全体をも燃やし尽くしてしまうからです。

それと同様に、私たちが発する言葉というものも、私たち全体をみにく汚してしまったり、その後の人生を大きく変えてしまうことも有り得る、ということのみことばは教えてくれています。…そう言われると、確かに、私たち、そういったような苦い経験をしてはいないでしょうか？…例えば、その時は、そこまで深くは考えていなかったのに、つい、「売り言葉に買い言葉」というような感じで言ってしまったことが、その後も訂正できずに、どんどん意地を張って…、強がり続けて、益々悪いことをしてしまったり、というような経験です。そういうことを繰り返していくことによって、私たちが益々、悪の深みにはまっていくのです。先程読んだ、イエス様の教えでもあったように…、悪いのは、言葉ではなく、私たちの心です！強がったり…、憤ったりして、悔い改めようとしない、私たちの頑なな罪の性質です。しかし、そういった罪の傾向が、私たちの語る言葉によって、さらに、助長されて、益々、悪い方向に走っていきってしまうのです。

### ● 悪い言葉 とは、どのようなものなのでしょう？

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻ってください。実は、ここエペソ 4:29 にある、『悪いことば…』の、『悪い』という単語(σαρπός)ですが、これは、「古びた、腐った、無益な、不健全な…」というような意味です。つい先程、マタイ 12 章の、イエス様の教えを参照しましたが…、その直前の 33 節で、『木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。』とありますが、実は、ここでも、それと同じ言葉が2度、繰り返し使われてあるのです。

聖書が教えるのには…、かつての私たちは、益にはならない…、悪い言葉しか語るができなかった、ということ。何故なら、私たちの心が、真の神様を知らず…、神様の方向に向いていなかったから。神様によって造られ…、神様によって生かされているにも関わらず、生まれながらの私たち人間は、神様のためにではなく、自分自身のために生きようとしていました…。神様の栄光を現わすのではなく、自分の栄光を現わし、自分の欲を満たし、自分自身のために生きていたのです。それを聖書は言うのです、「それは、あなたが造られた目的じゃない！それは、全く無益なことだ！」って…。

### ● 私たちクリスチャンが 話すべき言葉 とは？

では、本来、私たちは、どういったことを話すべきなのでしょう？⇒ここ 29 節には、こうあります。『…ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。』⇒神様が喜んでくださる言葉…、あるいは、有益な会話の目的とは、『人の徳を養うのに役立つことば』であり…、『聞く人に恵みを与え…』るような言葉だと、みことばは教えます。

それは、具体的にどういったことを指しているのでしょうか？…皆さん、思い出してくださいませ？⇒ある時、イエス様は、弟子たちに、このようなことを教えてくださいました。マタイ 5:13、『あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。』って…。また、それと似たような教えで、あのパウロも、コロサイ 4:6a で、こう教えてくれています、『あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。…』って…。

現代とは違って 2000 年前…、この当時の人たちが考える、塩のイメージはと言うと…、ほとんどが、味付けと腐敗防止でした。だから、ちょうど、ここでも、そういった言葉の意味から、先程のマタイ 12 章のイエス様のみことばと合致します。かつての、私たちの語っていた言葉は、残念なことに…、不健全なものであり、無益で、腐ったような言葉であったのです。それは、私たちがそう感じたというわけではありません。神様が、私たちの言葉を聞いた時、そのように感じられ…、そのように評価されるのです。

しかし、救われた後の、私たちが語るべき言葉は、そうであってはなりません。私たちの語る言葉には、魅力的な味があり…、それと同時に、人を腐った方向に走らせないような、防腐剤のような働きがあって然るべきなのです！…そうじゃないでしょうか？

例えば、皆さんだって…、誰かの言葉によって励まされたり…、あるいは、勇気付けられたり、何かを教えられたりした経験があるはず。私たちの話す言葉が、そのように人を助ける…、あるいは、信仰を建て上げる…、または、人を励ますというように…、人々にとって良きアドバイスを与え、人を導くような言葉を、私たちは語っていくべきなのです。そして何より…、真の神様が喜んでくださるような言葉を、私たちが語っていくようになることを、みことばは教え・勧めめるのです。

今日のみことばは、ここ 29 節の最後で、『…聞く人に恵みを与えなさい。』と教えます。『人に恵みを与える』には、まず、自分自身が恵みというものを理解し、それを受けている必要があります…。自分の弱さや罪深さを知り…、そんな自分に対しても与えられる神様の恵みというものを知っている者だけが、そのことを実践できるのです。当然…、それは、神様の恵みによって救われたクリスチャンです。

それはつまり、まだ、イエス様を信じておられない方々…、つまり、未信者の方々に對して、福音を語っていくことで実践できます。私たち人間の罪とその裁きについて…、聖書が教えてくれていることを語っていくことです！神様が、私たちが愛してくださった故に、救いの道が与えられていることを話してあげることです！ここ 29 節には、『必要なとき…』とあります。私たちは、自分が語る言葉を、吟味する時としない時があつて良いのでしょうか？いいえ、29 節の前半には、『悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。…』とあります。つまり、いつもいつも気を配っておかないといけないのです。しかし、私たちが、そうしていく時に、いつか語るチャンスが与えられる時が来ます…。そういった時が、『必要なとき…』、神様が与えてくださったチャンスなのではないでしょうか？

1ペテロ 3:14-15 では、そういったことが教えられています。そこにはこうあります。『14 いや、たゞ義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れず、それによって心を動揺させたりしてはいけません。15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求めると人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。』

⇒このみことばが教えてくれていることは、こうです、「まずは、あなた自身の信仰を明らかにしなさい！」って…。そのように、私たちが自分たちの信仰を明らかにし、そのみことばに沿った歩みをするによって、未信の方は、不思議に思うのです、「一体何故、この人たちの言葉によって、私は励まされたり、教えられたり、ある時は、良い方向に導かれたりするのだろうか？何が自分と違うのだろうか？」って…。それこそ、皆さんの言葉が親切で、塩味が効いているということ。…そういった時に、私たちが、自分の信仰や真の神様を証しできるチャンスが生まれてくるのです。あるいは…、そういった時に初めて、未信者の皆さんが、私たちの持つ信仰の素晴らしさに気付いてくださるのかも知れませぬ…。

しかし、そういったことが起こるためには、私たちは常に、神様を見上げて、みことばを実践していかないとはいけません。もしも、私たちが救われる前と何ら変わらない生活をしていたのでは、まず間違いなく、そういった証しのチャンスは生まれてきません。私たちが変えられたからこそ…、未信者の皆さんとは違う生き方をしているからこそ、そういったチャンスが生まれてくるのです！そうじゃありません？

どうぞ、皆さん。パウロとシラスとが、第2次伝道旅行の時、ピリピの町を通った時のことを思い出してください。その時のことが、使徒 16 章で、このように記されてあります。使徒 16:16-34、『16 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。17 彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣傳している人たちです」と叫び続けた。18 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け」と言った。すると即座に、霊は出て行った。19 彼女の主人たちは、もうける望みがなくなった

のを見て、パウロとシラスを捕らえ、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。20 そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、21 ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」22 群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、23 何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。24 この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。27 目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げたしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。28 そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」と叫んだ。29 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。32 そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。34 それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。』

⇒この時、パウロとシラスとは、何の罪も犯しておりませんでした。だから、このすぐ後の節をご覧くださいますと、この翌日、パウロたちは釈放されています。…どうか、皆さん、考えてみてください。この獄中の中で、パウロとシラスとは何をしていました？…彼らは、自分たちが不当な扱いを受けていることを神様にグチって、不平不満をこぼしていました？…いいえ！そうではなく、神様に賛美を捧げていたでしょ！…しかも、その時、大地震が起こって、それでも、彼らは牢獄から逃亡しようとはしませんでした。…それどころか、看守が自殺しようとしたので、急いで、その看守のことを止めようとしたわけです。…いかがですか？果たして、パウロたちの行動は、神様が喜ばれるような、親切で塩味の効いたものじゃありませんでした？だから、あの時の看守が、パウロたちに向かって、こんな質問をしたわけでしょ？『先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか？』(使徒 16:30)って…。

ここ最近、何度か、引用していますけれども、**マタイ 5:16** で、**イエス様は、こう教えてくださいました。『このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』**って…。いかがでしょう？この時、パウロやシラスたちは、まさしく、イエス様のこういった教えを実践したものではありません？…それが、この時、ピリピの看守やその家族たちの救いへと繋がっていったのではないのでしょうか？

じゃあ、今度は私たちです。…果たして、私たちの会話は、神様の目から見て、有益なものとなっているのでしょうか？果たして…、私たちの会話は、私たちを生かしてくださっている神様が喜んでくださるような…、神様の栄光を現わすという目的にそったものでしょうか？私たちが今日話す言葉や内容は、人の徳を高めるようなものでしょうか？神様の恵みを証しする…、福音のメッセージを伝え易くするようなものとなっているのでしょうか？…どうか、そういったことを意識して、ご自分のことを吟味していただきたいと思います。

#### ●どのようにして、こういったことを 実践 していける？

最後、良い機会なので、ここエペソ 4:25 以降で見られる対比について、今一度考えていきたいと思えます。実は、前回のメッセージの時にも簡単にお話ししたのですが…、ここでは、1つ1つの教えが対比されています。どうということかと言いますと、I・偽りの代わりに、真実…。II・怒りではなくて、平安…。III・盗みではなく、施し。IV・悪い言葉ではなく、人の徳を養う言葉、というように…。

間違いなく、これらのことをすべて完全に実践できている人はいません…。じゃあ、私たちは、どのようにして、こういったことを益々、実践していけば良いのでしょうか？…例えば、皆さん。皆さんは、これまで自分の悪い習慣を止めるために、どのようにしてこられましたか？1番簡単でもっともな答えは…、「頑張って、それを止めようとした…」という答えです。しかし、それだけでは不十分だということを、今回のみことばが教えてくれているのです。

どうということかと言いますと、例えば、ある方がタバコを止めようとした場合、その人は、タバコを我慢する以外に、何をしますか？よく耳にするのは、タバコを止めると、口が寂しくなるから、飴を食べるようになった、ということですよね？また、ダイエットを始めた人は、食事制限の他に、運動をしたりしますでしょ？つまりは、その…、やめようとするその行為に関連のあることで、しかも、それとは、全く正反対のことをするわけです。

実は、このみことばも、それと同じようなことを教えてくれています。I・偽りを…、それも身勝手な理由を付けて話すのではなく…、お互いを思いやり合って、真実だけを積極的に話しなさい。II・怒ることで、自分のフラストレーション(=欲求不満)を解消するのではなく…、神様に委ねることを学びなさい。III・盗むことで、満足を得ようとするのではなく…、逆に、自分が施す側になりなさい。IV・悪い言葉で無益なことを話すのではなく、人の徳を高めるようなことを話していきなさい、ということです。

何を言いたいのかと言いますと、教会の中で、時々、見受けられるのは、ある方が悪い習慣を断ち切ろうとしているのですが、それに代わる良い習慣を身に付けようとはして“おられない”ことです…。もしも、皆さんが、「私は、すぐに人を裁いてしまう…。すぐに怒ってしまう…。」と思われるなら…、それを止めようとするだけでなく…、積極的に良い行動をされることです。例えば、その人のことを理解するために、あなたが、その人の所に行って話すことです。相手を理解しようとするのです。そうすると、相手の考えなどが理解できるかも知れません。そうすることで、その人への無理解や怒りを抑えられるかも知れません。

#### <励ましの言葉>

どうぞ、皆さん。今回のみことばの直前の部分をご覧くださいませ？**エペソ 4:22-24**、『**22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。**』…ここでは、古い人を脱ぎ捨てるべきということ、新しい人を身に着るべきである、ということが教えられてあります。

⇒『**古い人**』…、言い換えれば、救われる前の古い行動…、かつての習慣や生き方のことです。多くの人たちは、何らかの問題が起こったり、何かの必要性を感じたりして…、悪い習慣を止めようとしています。しかし、よくよく有るのは、新しい習慣を身に付けようとしません。恐らく、そのままでは、そのチャレンジはより難しいままです。大事なことは、私たちが勇気を持って、古い習慣に代わるような…、新しい習慣を身に付けようとしていくことなのです！

でも、実際は多くの場合、それには困難や不便さが伴うために、多くの人が挫折します。忍耐や工夫が足りないのです。確かに、最初は難しいでしょう…。しかし、慣れると、それが最初ほど困難ではなくなってくるのです。どうぞ、皆さん、自転車に乗り始めた時のことを思い出してみてください。例えば、皆さんは、小さい頃、いきなりスムーズに自転車に乗れました？…そうじゃなかったはずですよ。だって、自転車という乗り物は、①ちゃんとバランスを取って、②前を見て、③ペダルをこいで前に進んでいかないと、すぐに倒れてしまうので、幾つかのことを同時にやっていたいかならないといけないからですよ。

あるいは、どうか、皆さん。車の運転をイメージしてみてください。オートマは簡単過ぎるので、ギア付きの車の方です。免許の無い方も、どうか、イメージしてみてください。自動車も、これまた結構大変ですよ。…特に、ギア付きの車は、ギアを1つ変えるために、①まず、アクセルを離して、②クラッチを踏んで、③手でギアを適切な位置に移動して、そして、今度また、④クラッチを離して、⑤アクセルを踏んで、車を前に

進ませます。こういったことがスムーズにできないと、車はスムーズには走ってくれません。しかも、その車を、例えば、左折させる時はさらに大変です。まず、①車の左を安全確認して、②左のウインカーを点滅させて、③「巻き込み確認」のため、車を少し左に寄せて、④交差点に入ったら、横断歩道上に人が居ないかどうか、自転車が近づいていないかどうかを確認して、左折します。ギア付きの車は、先程言った、ギアを変える手順を、左折しながら、それと同時に、しないといけなかつたりするわけです。そんなこと、最初からできっこありません。…でも、何度も何度も、少しずつ練習を積んでいくことで、できるようになっていくわけです。

先程言った、自転車だって、初めは、おっかなびっくりだったのが、慣れてくると、良いかどうかは別として、傘を差しながら、自転車に乗れたり、カゴいっぱい物を積んだり、後ろに子どもを乗せながら、しかも、最近の若者たちはスマホを操作しながら、自転車に乗っていたりします。…もちろん、そういったことはあまりよくないことですが、でも、それほど、自然に…、慣れてくると、簡単にできるようになつたりするわけです。…大事なものは、まずは信仰です！ 神様によって救われて、神様に変えていただくことです。その次に、「始めようとする勇気」であつたり…、また、「続けていこうとする忍耐」だつたり…、あるいは、何とか工夫したり、「頑張ろう！」とする努力なのではないでしょうか？ そうする時に、私たちは「慣れ」ていくのです…。

そして、もう一つ、忘れてはならないのが「聖霊なる神様の助け」です。それに関しては、来週の礼拝で学んでいきたいと思つています…。でも、どうか、皆さん、忘れないでください！ 神様によって救われて、神様の性質を受け継いだ皆さんには、間違いなく、神様のみこころに沿って歩いていけるし、ますます、キリストの似姿に似た者へと変えられていくのです！ …どうぞ、新しく生まれ変わらせられた者として…、新しい習慣を身に付けて…、ご一緒に、益々、神様に喜ばれる者となっていきましょう。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。